

## 令和2年度 第3回高浜町総合教育会議 会議録

開催日時	令和3年2月15日(月)	開会13時56分 閉会15時05分
開催場所	高浜町役場 会議室3・4	
出席者	町長 野瀬 豊 委員 福田 敏弘 委員 濱野 秀子	教育長 釣本 眞史 委員 江川 雅也 委員 田中 温子
事務局	【教育委員会事務局】 局長 的場 均 次長 堀口 剛 【総合政策課】 課長補佐 中川 宗浩	次長 小林 英文 主査 十前 弘典
1. 町長あいさつ		
野瀬町長	令和3年度から新たな総合計画がスタートする。それに併せて、令和3年度からの教育大綱の内容を協議していきたい。 マニフェストに基づき、今年度は給食費無償化を実施したが、未実施の数項目については、令和3年度中に完了させる予定。	
2. 高浜町教育に関する大綱について		
事務局	総合計画との整合性を図りながら「高浜町教育に関する大綱」(案)を作成した。対象期間は、令和3年度から令和7年度までの5年間。 大綱に基づいた具体的な施策のアクションプランは、毎年度「高浜町教育重点方策」として策定していく。 ～ 資料を基に説明 ～	
町長	ICTの活用について、iPadやアプリなどの使い方を教えることも大事だが、ほとんどの人は情報の受け手側なので、その情報が正しいのか選別する方法を学ぶ事も大事。	
教育長	ICTを子どもたちにどう教えるかの前に、先生がどう捉えていくかが大事だと思っている。今までの授業は受け身的で、先生から子どもたちへ一方的に情報を発信していく勉強だったが、今後は、いろいろな情報を得て、頭の中でどう構築して発信していくのが課題だと思う。	
事務局	いろいろな情報があるため、どの情報が正しいのかわからなくなってきている。SNSなど通常に使われているツールもあるので、うまく活用して情報の正確性を意識させていければと思う。ただ、学校内の環境だと、悪い情報にはフィルターがかかっているので、そのあたりの学習は家庭でしてもらおうことになる。	
福田委員	ICTを効果的に使うことで、先生の事務負担も軽減されればよい。	

教育長	子どもたちには、世の中の意見の多様性も教えていくべきだと思う。
江川委員	情報選択の根本にあるのは、道徳や人権教育だと思うので、それらの教育をしっかりとすれば心配ないのではと思う。中学生や高校生は、学校の研修や講演会などで、いじめなどの具体的事例を見ているが、むしろ親世代の方が、ネット情報にそのまま乗っかっているような気がする。
福田委員	いろいろな価値観や多様性があるので、それを受け入れていくことを、今の段階から学習していけるとよい。
事務局	SNS などを見ると、個人の承認欲求が強くなってきている気がする。何かしらの事件に巻き込まれないよう、そこから逃げるといった選択肢も教えていく必要がある。
江川委員	働き方改革もあるので、まずは先生の業務量を減らしていく必要がある。余裕を持つことで、新しいことにも挑戦していける。
事務局	教育大綱は大きな枠組みなので、運営支援員による補助や、部活動などの人員配置をどうしていくのかは、これからの課題である。
教育長	教員の働き方改革は大きな課題。自分も現場にいたが、やればやるほど切りがない。プリントを出せば、その丸付けをしないといけないので、そのまま自分に返ってくる。 この2月から、週に1回子どもたちを早く帰らせる日を意図的に作った。現場からは少し余裕が出来たという意見も聞いている。
江川委員	大綱の中項目の「学校の在り方の検討」で、「学校規模の適正化」とあるが、小中学校の再編を視野に入れているのか？
教育長	将来的には触れないといけない問題。内浦小中学校の児童生徒数は、今後数年は横ばい状態だが、その先はどうなるかわからない。その際にいきなり統合という話ではなく、事前準備もしながら検討していく必要がある。また、内浦に限らず、町内全体を見渡して、どうしていくべきかも検討していきたい。
町長	校舎の問題もある。老朽化に伴い改修が必要だが、財政的にも厳しい。いくつか考えられる選択肢を持っておき、10年くらいかけて実施していくべきだと思う。
事務局	今のうちにある程度議論しておかないと、ハード整備を先にただけで、その次に繋がらない可能性がある。今後を見据え、方向性を検討する時期にきているので、大綱にもその旨を記載した。
町長	郷土資料館も大規模改修の時期に来ている。そのままリニューアルする選択肢もあるが、お客さんもそんなに来ていないので、どこかの施設に併設してもいいのではと考えている。
福田委員	以前その話が出た時に、文化会館に併設するのはどうかという意見もあったが、資料館だけを目的としてあそこへ行くのは難しいので、人が集まる施設に併設した方が、「何かあるし見てみようか」という気になり、結果的に集客数が増えるのではと思う。
町長	旧庁舎と移転後の高浜保育所の解体に、試算上では約10億円かかる。町内の公共施設は約50ほどあるが、全体数を減らさないと、職員の配置も含めた施設の維持ができなくなる。
田中委員	生徒への支援の充実に期待するが、どのように支援していくべきかが課

	<p>題だと思う。先生に研修などの機会を与えることで、年々変化する状況に対応できる力をつけて、生かしてもらいたい。</p>
教育長	<p>発達障害などのテスト結果を基に区別するのではなく、個別にどのように支援していくかが、今問われている。専門家やスクールカウンセラーをうまく活用していければと思う。</p>
事務局	<p>担任一人でカバーできる問題ではないので、学校全体で取り組んでいきたい。最近、特別支援の免許を取ってから現場に出てくる制度が進んでいるので、こちらとしては非常にありがたい。</p>
教育長	<p>いろんな施策を実施していく中で、環境整備だけでなく、内容も伴うように進めていきたい。</p>
濱野委員	<p>先生の仕事が大変というのが世間にも伝わっているようで、なりたい職業の順位が下がってきている。子どもが好きな先生は、休み時間も子供たちにくっついて、離れない感じだった。そういう先生に出会えば、子ども達の将来にも大きく影響すると思うので、先生という職業がよいイメージになれば、今後にも繋がっていくと思う。</p>
福田委員	<p>先生の働き方改革を制度化すべきだと思う。現場の努力に任せてもなかなか進まないと思うので、県内一斉に部活動は週2日にするなど、統一しないといけないのでは？</p>
教育長	<p>中体連という組織もあるし、勝つことに意義があるという考えもある。将来的には子どもの数が減少し、部活動も継続できないと思われるので、地域の指導者に協力してもらおうような体制づくりにせざるを得ない。町内ではハイビーチも設立したので、今後は、地域との連携を進めていきたい。</p>
事務局	<p>先生の求人倍率が3を切っている状況なので、人材を選べる状態ではない。今後を見据え、先に繋げていくためにも、今の現場に魅力を感じる工夫をしていかないといけない。</p>

～ 終了 ～